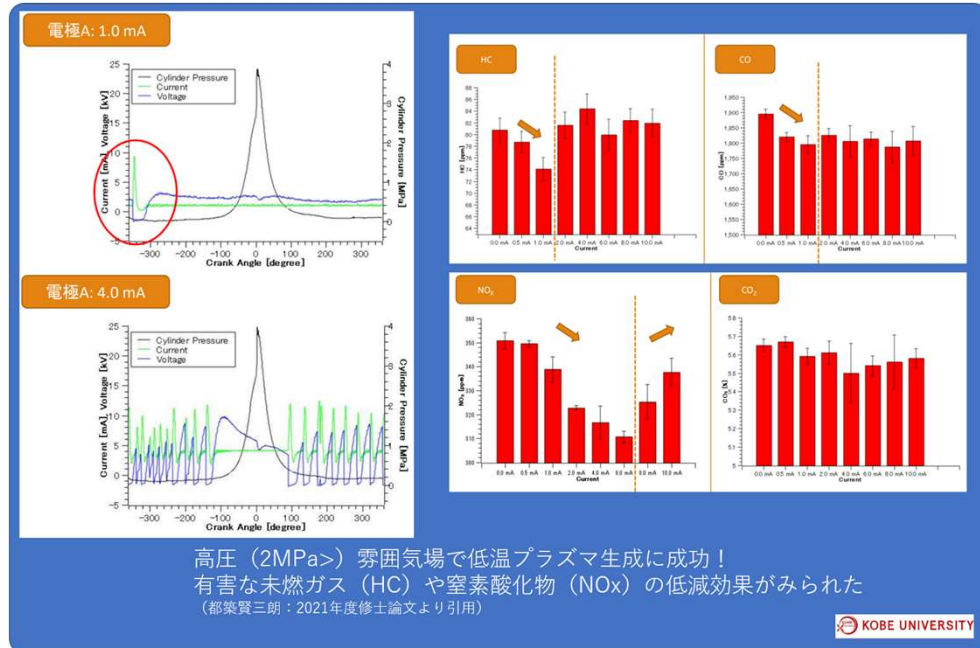
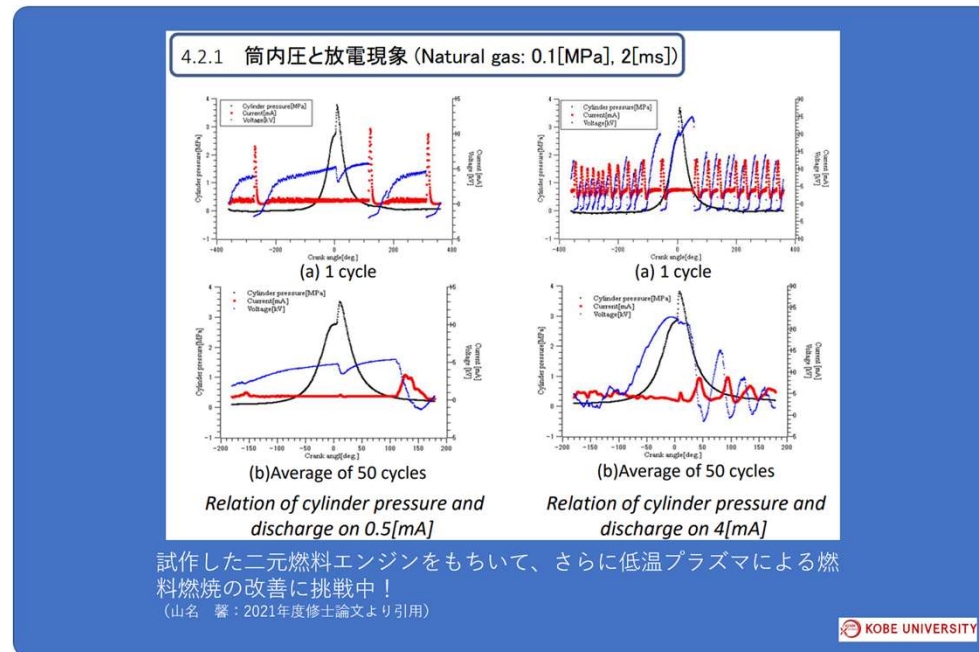
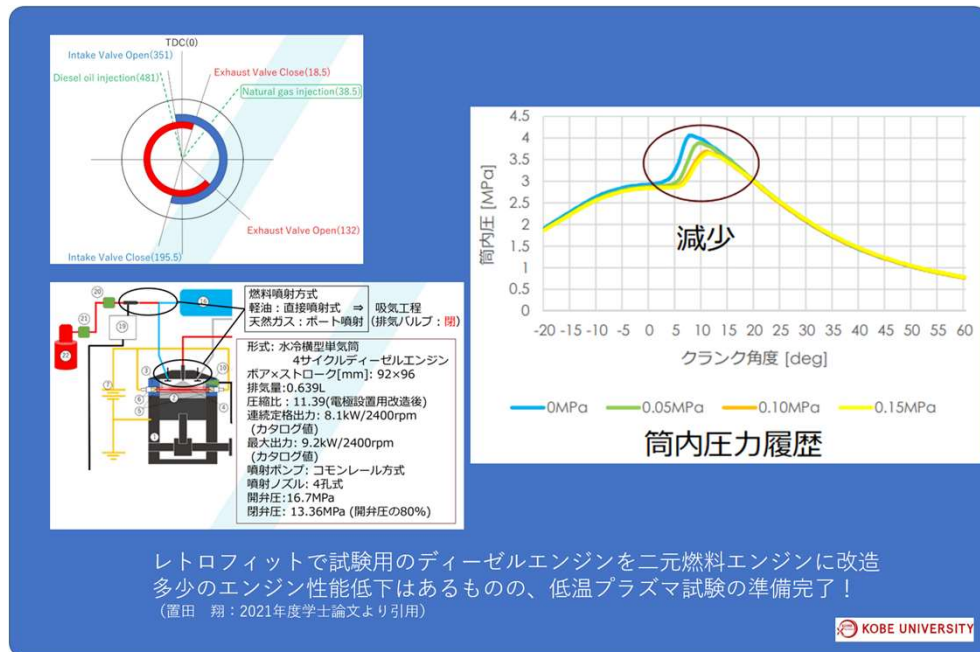




丸棒にワイヤーを巻き付け、有刺鉄線のようなものを穴の空いたパイプで覆い、ワイヤーの先端からパイプの内側の側面に放電させた（電極Aと呼称）。電極Aにおける筒内圧と電流電圧値の関係と排ガス分析の結果はつぎのとおりであった。

- 電流値が2.0 mA以上になるとスパーク放電が頻繁に発生し、電流電圧値が不安定になる。
- 未燃性成分(CO, HC)では0～1.0 mAの範囲では電流値を上げていくと減少することができたが、2.0 mA以上となると増減の明確な傾向が見受けられなかった。

電極に工夫をして、さらに挑戦していきます！